

フォーラム実行委員会報告

学園祭協賛行事のひとつとして、学園祭期間中の11月2日（金）に図書館の第2閲覧室で「フォーラム 学生と図書館 ～ 絵本で繋がる国際交流～」というテーマで図書館フォーラムを開催いたしました。

今回は、絵本を通して子どもたちと接して国際交流を深めておられる2組の方々にその交流にまつわる発表をしていただきました。フォーラム開催の前日に京都新聞の朝刊にこのフォーラムが開催されるということが掲載されたこともあって、約60名近くの方がフォーラムに来てくださいました。この場をお借りしまして、フォーラムに来てくださった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。



まず最初に「カンボジアのスタディ・ツアーで得たもの」という題目で発表していただきました。発表者は、英米語学科3年次生の瀧上倫加さんとイスパニア語学科2年次生の瀬戸千翔世さんのおふたりで、「Picture book for Cambodian children」というボランティア・グループに所属されています。昨年の3月にはじめてカンボジアに自分たちで手作りした絵本を送り届けに行った事を中心に、カンボジアでは、内戦から後のポルポト政権の極端な社会改革の影響で子どもたちが学校に行けなくて字が読めないという厳しい状態にあることなどもからめて、実際にカンボジアで撮った写真を見せながら、話していただきました。瀧上さんも瀬戸さんももともと絵本を作ることが好きで、それがきっかけでこのボランティア・グループに入られました。

おふたりは、自分たちが作った絵本をカンボジアの子どもたちに手渡したときにその子どもたちがとっても喜んでくれたことに非常に感動されました。今年もまたカンボジアに行くことを計画して今新しい絵本を作っておられます。

ふたつめの発表は、「絵本で学ぶ日本語」という題目で、大学院博士後期課程外国語学専攻異言語・文化専攻の山本アナ・クリスチーナ・アケミさんにしていただきました。山本さんは、現在兵庫県教育委員会の「子ども多文化共生センター」から各小学校に派遣されて、ブラジルから日本に移住してきた子どもたちに絵本などを使いながら、日本語習得のサポートをしております。その活動における問題点、そしてその活動をすることでわかった絵本で学ぶ外国語や外国文化の重要性について話されました。ブラジルで最も有名な児童文学作家モンテイロ・ロバート（Monteiro Lobato）やブラジルの民話によく登場するサシー・ペレレー（Saci Pererê）という妖怪の紹介などもして頂きました。

発表後の質疑応答の時には、非常に沢山の人が質問をしてくださって、このフォーラムを聞きに来られた方々がどれだけ2組の発表に感銘を受けられたかが伺えました。

今後も聞きに来られる方に満足していただけるフォーラムができるように企画・検討をして参りますので今後ともよろしく願いいたします。



委員長 栄 咲子